

# 生涯学習の推進を図るための参加型学習の方法論（４）

清 國 祐 二  
鈴 木 文 明

はじめに

## I リスクマネジメントに関する公開セミナーの実施

- 1 学習プログラムのフレームワーク
- 2 損害保険・賠償保険の基礎理解
- 3 グループワーク
- 4 質問とまとめ

## II 公開セミナーの振り返り

- 1 公開セミナーのプレゼン資料
- 2 公開セミナーの成果と課題

まとめ

## はじめに

本研究は、研究報告11号以来継続している、参加型学習の方法論に関する研究実践である。これまで筆者が実践してきた成果を報告してきたが、今回は（社）日本損害保険協会（以下、損保協会と略記）とのコラボレーションによって実現した、リスクマネジメントに関する公開セミナー（参加型学習）の報告とする。

本公開セミナーが実現するにあたってはいくつかの要因が絡んでいるが、ここではひとつの要因に絞って説明する。地域にはさまざまなボランティアな活動が存在するが、理不尽なことにいくらボランティアな活動であっても、何らかの事故が発生した場合、その結果に対してはボランティアにも責任が生じてしまう。万一に備えて保険に入っていたとしても、ケースによっては適用されない場合もあるのが現実である。責任ばかりに気を取られて、地域や団体の活動が衰退してしまえば、社会の活力を失うことにもつながりかねない。そこで、コミュニティセンターやPTA役員をターゲットに、保険の基本的な考え方やメカニズムを理解してもらうと同時に、参加型学習によって自分の回りの課題に置き換えて納得してもらうよう、学習プログラムを作成してみた。

本セミナーは合計3度、出前講座のスタイルをとって実施した。ここでの実践報告は、そのうちの1回、高松市PTA連絡協議会評議会研修にて行った講座内容をもとにしている。

## I リスクマネジメントに関する公開セミナーの実施

### 1 学習プログラムのフレームワーク

P T Aの活動は基本的にボランティアなものである。保護者だけの活動もあれば、親子参加の活動もある。学校内で行われる活動や学校外での行事への参加、レクリエーションなどがある場合もある。P T A会員はみんな同じ立場であるべきだが、企画立案及び運営に携わる役員とそうでない一般会員とに、意識的にも実態としても別れてしまうのが現実である。大変な思いをして準備をしてきた役員であるが、そこで事故など起こればその責任は役員の方へ向かってしまう。そのような悲劇を予防するための学習が今回の目的である。

そのために、参加する保護者や子どもが活動の最中に大きな事故を引き起こさないように安全性に配慮することが第一である。それでも事故の可能性をゼロにすることは不可能なので、万が一の事態に備え、準備する側があらかじめどのようにリスクを受け止め、回避するための準備をすればよいのか、研修の中で考えてもらいたい。このことをリスクマネジメントととらえ、学習プログラムを組んでみた。まだ完成形ではないが、ひとつの提案として示したい。

専門的な講義と、具体的なケースに関する質問への回答は損保協会の鈴木文明氏に担当いただき、筆者は全体のファシリテートを担当した。当日の進行表は表1の通りである。当初は90分の予定であったが、高松市P T A連絡協議会の都合により急遽60分の内容に変更したことを申し添える。

表1：研修のプログラム進行表

時間	形式	テーマや内容	担当	準備物
19:00～19:03	趣旨説明 講師紹介	本講座の趣旨・ねらいについて	清國祐二	
19:03～19:10	導入	(社)日本損害保険協会の社会貢献の概要 「ぼうさい探検隊」のビデオ映像の視聴	鈴木文明	プロジェクター
19:10～19:20	クイズ 講義	クイズ① (リスクの処理・制御の方法につなげる) クイズ② (貯蓄と保険の考え方の違い)	鈴木文明	プロジェクター クイズ終了後、「そんぽのホント」を配布
19:20～19:35	グループワーク	P T A活動に関するリスクの抽出 ①P T A主催のスポーツ大会 (学休日開催) ②定期・不定期に集まるP T A役員会	清國祐二	大きめの付箋紙
19:35～19:45	解説	リスクの分類をモデルを使って解説 ①他人への損害賠償リスク ②自分のからだについてのリスク ③財物の損害リスク ④費用損害リスク ⑤その他のリスク	鈴木文明	プロジェクター
19:45～19:55	質疑応答	分類できなかったものについて質疑応答	鈴木文明	
19:55～20:00	まとめ	ワークショップの内容についてまとめる	鈴木文明 清國祐二	

### 2 損害保険・賠償保険の基礎理解

損害保険や賠償保険は、通常小さな字でぎっしりと書き込まれた約款があり、しかも日常目にしない専門用語が並んでいることも手伝い、一般には中身を読んで理解している人はごく稀である。保険が適用されるような事態が起きなければ知らなくても何ら問題はないのであるが、万一事故が発生すると、知らなかったでは済まされないのが主催者の置かれている厳しい立場である。

短時間で全ての知識を得ることは到底できないので、まずは保険の考え方の原理を知り、それをもとに参加者の周辺の事象を思い浮かべつつ、参加型の学習に取り組んでもらった。原理の説明では、クイズを用いながら専門用語も使いつつ実施した。対象が評議員であることもあり、前提とする知識レベルを高く設定した。

リスクは生活場面で普通に生起するものであるため、完全に排除することはできない。だからこそ、リスクマネジメント、リスクコントロール、リスクファイナインシングなど、私たちがリスクとどう向き合えばよいのかを示す考え方が生み出されるのであろう。ここではまず考え方の概要さえ理解できればよいという姿勢で臨んだ。

### 3 グループワーク

「考えてみましょう！～PTA活動に関するリスク～」と題してグループワークを実施した。例年通り、ごく当たり前に実施しているPTAの行事や活動も、「リスク」というフィルターをかけてみると危険が見えてくる。2年目、3年目の評議員もいるが、半数以上はPTA評議員をまだ半年間しか経験していない方々である。時間の関係もあり、十分なグループワークには残念ながらなっていないが、振り返ってみたい。

#### ①PTA主催のスポーツ大会（学校休日開催）

多くの小中学校で、PTA会員の親睦を図るスポーツ大会が実施されている。日頃十分な運動ができていない保護者が参加するので、準備体操等念入りにするのだが、それでもけが人が出ることがある。靭帯やアキレス腱の損傷はよく耳にする怪我である。スキーに行って骨折したなどもある。

このような場合、主催者はどのように対応すればよいのか。議論としては、基本的には自己責任であり、むしろそうしなければきりが無い、といった意見があった。一方で、仲間の怪我であるので自分に置き換えると、保険で賄えればそれに越したことはない、といった意見も出ていた。

これらの意見に対して、唯一の結論や正解があるわけではない。しかし、あらかじめ正確な情報をもとに主催者としては事前に議論しておく必要はあるだろう。それをやる上で、今回の講義とグループワークが参考になれば、という思いである。

#### ②定期・不定期に集まるPTA役員会

こちらは日常のミーティングといった程度のものである。役員会等で何かあったという事例はあまり耳にしないうえに、こちらに関する話題は出ていなかった。10グループほどあったので、正確には聞き取れていないこともある。敢えて身近な話題にもっていくために設定したテーマであったが、今回は適当であったとはいえなかった。

### 4 質問とまとめ

時間の関係もあり、質問はほとんど出なかった。時間設定が少なくとも90分必要であることが確認できた。まとめは、鈴木文明氏によって次頁から掲載する資料に従い行われた。場面とリスクを絡めて具体的に事例を挙げたり、それぞれのリスクを「保険」というフィルターを通してどのように写るかを示していただいた。講義資料に続く形で、鈴木文明氏によるセミナーを終えての成果と課題についてまとめていただく。

II 公開セミナーの振り返り

**クイズ①**  
 リスクマネジメントの考え方において、リスクを処理・制御するための具体的な方法を「回避」「防止・軽減」「分散」「保有」「移転」という言葉で表しています。それでは、「ぼうさい探検隊」および「保険」はそれぞれどれにあたるでしょうか。次の中から選んでください。

**ア. 「回避」**  
**イ. 「防止・軽減」**  
**ウ. 「分散」**  
**エ. 「保有」**  
**オ. 「移転」**



「ぼうさい探検隊」

**答え**  
**「ぼうさい探検隊」⇒ イ. 「防止・軽減」**  
**「保険」⇒ オ. 「移転」**

**リスクの処理・制御の方法**

- ① **リスクコントロール**
  - 回避
    - 防止・軽減
    - 分散
    - 移転
- ② **リスクファイナンス**
  - 保有 (収益で吸収、準備金の積み立て、自家保険、キャプティブなど。)
  - 移転
    - 保険
    - 保険以外

**「リスクコントロール」とは・・・**

リスクコントロールは、リスクの発生自体を防止する、または不幸にしてリスクが発生した場合の損失を最小にする手段。

- 回避**

予想されるリスクにいつさいの関係性を持たないこと (⇒利益機会の変失)  
 <例> 腐敗しやすい食品の夏季における流通中止
- 防止・軽減**

損失発生頻度を減少させる、または排除すること、損失の強度を減少させること  
 <例> 建築物を耐震構造に改修、スプリンクラーの設置
- 分散**

人や物、企業活動を複数に分散させ、リスクの強度を軽減させること (⇒リスクの発生単位の増加に伴い、事故の発生頻度が増加)  
 <例> 生産拠点、商品保管場所の分散
- 移転**

所有権の移転や契約により、企業の負うリスクを制限しておくこと  
 <例> 所有しているビルを売却し、そのビルにテナントとして入居

**「リスクファイナンス」とは・・・**


リスクコントロールによってもおお発生する損失に対して、金融的・財務的な手段でをして損失に備える手段。

- 保有**

発生した損害を自ら負担すること  
 <例> どのような場合に利用されるか？>  
 ◆他者への移転が不可能な場合  
 ◆経済的な理由により他の手法を採ることができない場合  
 ◆手続可能で少額な損害の場合  
 ※金融的・財務的な裏付けが必要 (準備金、自家保険、借入れ、等)
- 移転**

■ **保険**  
 予測が不可能で、かつ、巨額な損害が想定される場合に利用されることが多い。一般的に火災、自然災害、損害賠償責任、労務補償などのリスクが対象。  
 ■ **保険以外**  
 損害賠償金や訴訟費用などの負担を、免責条項の付帯、補償条項の挿入などにより、相手方に移転するもの。  
 <例> 買収特約、建設工事請負契約、等

**クイズ②**  
 私たちは普段「貯蓄は三角、保険は四角」という言葉を使って貯蓄と保険の考え方の違いを説明しています。さて、これはどんな特徴の違いを言い表しているのでしょうか？



**<参考>**  
 どの方法でリスクと向き合うか...

頻度:大 損害:小 ⇒ 防止・軽減	頻度:大 損害:大 ⇒ 回避、分散
頻度:小 損害:小 ⇒ 保有	頻度:小 損害:大 ⇒ 移転(保険等)

発生頻度 ↑

損害の大きさ ↑


考えてみましょう！  
 ～PTA活動に関するリスク～

- PTA主催のスポーツ大会  
 (学校休日開催)  
 (例:ソフトボール大会、バレーボール大会等)
- 定期・不定期に集まる PTA役員会




**答え**

「貯蓄」



「保険」



貯蓄の場合、事故や災害が起きた時に、十分なお金が貯まっているとは限りません。貯蓄は、目的に合わせて貯めていくものですので、いつ起こるか分からない事故や災害のそなえには向きません。


一方、保険の場合は契約期間を通して補償を得ることができます。だからいつ起こるか分からない事故や災害にも備えることができます。

このような性質(上記イメージ図ご参照)から「貯蓄」は三角、「保険」は四角 と言われています。

### PTA活動に関する5つのリスク

① 他人への損害賠償リスク


○主催者



② からだについてのリスク

③ 財物の損害リスク

○参加者



④ 費用損害リスク

⑤ それ以外のリスク

### PTA活動に関する5つのリスク

① 他人への損害賠償リスク  
 <想定されるリスク(例)>

主催者のリスク	参加者のリスク
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ大会の会場内の看板が倒れて参加者にケガをさせた</li> <li>・PTA役員会議の開催にあたって会場からかりたマイクを壊してしまった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ大会の参加者が別の参加者にケガをさせた</li> <li>・スポーツ大会の参加者が別の参加者のビデオカメラを壊してしまった</li> </ul>

### PTA活動に関する5つのリスク

② からだについてのリスク  
 <想定されるリスク(例)>

主催者のリスク	参加者のリスク
<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員会で出された弁当を食べて役員が食中毒になった</li> <li>・PTAの役員会に向かう途中にケガをした</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ大会に向かう途中、交通事故に遭いケガをした</li> </ul>

### PTA活動に関する5つのリスク

③ 財物の損害リスク  
 <想定されるリスク(例)>

主催者のリスク	参加者のリスク
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ大会に使用する器材を運搬中、PTAで所有している器材を壊してしまった</li> <li>・役員会で使用する事務所の椅子を壊してしまった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ大会を撮影するために参加者個人が持ってきたカメラを壊してしまった</li> </ul>

### PTA活動に関する5つのリスク

**④ 費用損害リスク**  
 <想定されるリスク(例)>

主催者のリスク	参加者のリスク
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ大会が台風で中止になってしまい、払い込んだ会場費や会場設営費用、各種雑費(電話代やチラシの印刷代)等が無駄になった</li> </ul>	

### PTA活動に関する5つのリスク

**⑤ その他のリスク**  
 <想定されるリスク(例)>

主催者のリスク	参加者のリスク
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ大会の準備が間に合わなかった</li> <li>・役員会を開くための会場が借りれなかった</li> </ul>	

### まとめ

**◆各種リスクと損害保険**

リスクの種類	保険の対象	対応する保険(例)
①他人への損害賠償リスク(対人・対物)	○	賠償責任保険
②からだについてのリスク(自分・他人)	○	傷害保険
③財物の損害リスク	○	(主)動産総合保険 (参)火災保険 (家財付保、持ち出し家財)
④費用損害リスク	○	イベント保険 (興行中止保険)
⑤その他のリスク	×	なし

### まとめ

**【注意！】こんな場合は、保険で補償されない！**

- <他人への賠償リスク>
  - ・故意に他人のものを壊した
- <からだについてのリスク>
  - ・元々ケガをしていた部分を悪化させた
- <財物の損害リスク>
  - ・元々椅子が壊れかけていた
- <費用損害リスク>
  - ・スポーツ大会の準備等にあたり、関係者の過失や意見の相違等が理由として大会の開催ができなくなった

## 2 公開セミナーの成果と課題

損保協会では、日常生活の中の危険を認識し、万一のときの経済的な備えとして必要な「損害保険」について、消費者への啓発活動を行っている。しかしながら、「消費者」と「保険会社・損害保険代理店」との間には、知識(情報量)のギャップがあることが否めず、ギャップをいかに埋めていくかが課題であった。

こうした中、消費者との直接対話を実現し、損保協会のプレゼンスアップを図ることを目的に、公開セミナー(そんぽオープンセミナー)を企画することになり、香川大学と共催する運びとなった。損保協会の地方組織である、四国をはじめとした全国11支部を、いかに活用して啓発していくかが各方面から求められている中、地域に根ざした公開セミナーの実現に至り、目的を達成することができた。

今回の公開セミナー開催によって、次のような効果があったと考えられる。

第一に、ニュース性が高まったことである。少人数に対して丁寧に伝えていくことから、一見その波及効果は小さいように見えるものの、現在、定期的に消費者の知りたいことに応えるセミナーの場を提供している業界団体はなく、マスメディアに対する二次的効果は大きいものとする。

第二に、地元消費者団体等から、地域に根ざした地道な活動として評価を得たことである。消費者が損害保険に対して親近感を持つことで、損害保険業界の品質向上につながることをできたとする。

第三に、前述のとおり、損保協会地方支部機能を有効に活用できたことである。地域に根を張った損保協会活動のモデルとして、「協会支部機能を活用すべき」との命題に応えることができたとする。全国一律の公開セミナーでは受講者の満足を得ることは難しく、四国のニーズを探り、例えば高潮被害の教訓から自然災害への備えを学習するといった方法をとったことで、受講者(消費者)の知識(情報量)は確実に増えたのではないだろうか。

損保協会では、現在、全国で実施した公開セミナーの成果を検証している。今後、損保協会四国支部においては、受講対象をさらに広げ、受講者のニーズにあったテーマを選定することで消費者との直接対話をさらに推進していきたいと考えている。

## まとめ

損保協会と生涯学習教育研究センターとのコラボレーションによる公開セミナーは今回初めての試みであった。セミナーの対象をコミュニティセンター職員と高松市PTA連絡協議会評議員に絞ったのは、学習課題が鮮明でデザインしやすかったことが理由のひとつである。単なる知識の伝達ではない、学習者参加型のセミナースタイルは、学習者中心・課題中心でなければならないため、できるだけオーダーメイドにする必要がある。そのことこそが、学習者の意識変容や態度変容につながるからである。その意味で今回の取り組みは一定の成果を出したと見てよい。今後の方向としては、学習施設やさまざまな団体の学習ニーズに応じた、オーダーメイドかつ出前型のセミナースタイルを検討していきたい。保険の知識部門は損保協会、学習プログラム設計や参加型の手法は大学、というように専門性を生かした連携のあり方を確立していきたい。

## 参考資料

「そんぽのホント」「わかりやすい損害保険の入り方」「バイヤーズガイド」「保険金の請求から受け取りまでの手引」以上、(社)日本損害保険協会編集の消費者向け冊子